

西諸県地域の普及活動

令和7年3月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 3月期子牛郡品評会が開催

7日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和7年3月期子牛郡品評会が開催されました。

3月14日から16日に開催される3月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た34頭が出品され、審査の結果、優等賞に6頭、老等賞に15頭、忒等賞に13頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市の中島ちどりさん出品の「ちなつ」号（耕富士ー満天白清ー勝平正）、2席は小林市の立山健二さん出品の「ひかる1461」号（桃白鵬ー耕富士ー美徳国）、3席は高原町の本田長信さん出品の「ももこ」号（桃白鵬ー耕富士ー勝平正）が受賞されました。受賞牛は、発育良好で体積豊か、体の幅、高さ、長さ、骨じまりが秀でていたとの講評でした。



【ちなつ号】

体の幅、高さ、長さ、骨じまり

2) 第23回宮崎県西諸 B&W ショウが開催

4日に、小林地域家畜市場において、第23回宮崎県西諸 B&W ショウが開催されました。西諸県地域から24頭が出品され、7部門の首席はそれぞれ、第1部、第6部で小林市の温水聖さん、第2部と第7部で高原町の石山牧場、第3部、第4部でえびの市の川原澄広さん、第5類で高原町の清水豊さんが受賞されました。なお、ジュニアチャンピオンは小林市の温水聖さん、グランドチャンピオンは高原町の清水豊さんが受賞されました。



【特別賞受賞者】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

12日、えびの市いちご団地の研修生2名に対してそれぞれ就農相談会を行いました。

認定新規就農者の認定に向けた経営収支計画や青年等就農計画の内容検討が進められ、年度明けの認定に向けて必要となる支援を継続していきます。

※就農相談対応 2者2回 (内訳 えびの市：施設野菜2者)

2) 新規就農者育成総合対策経営開始資金（旧：農業次世代人材投資資金）活用者の就農状況等の確認

7日に、高原町で経営開始資金等を受給する新規就農者2名に対して、就農状況の確認が行われました。

地域関係機関担当者により現地の実際の状況確認を行い、就農計画の進捗状況の確認や課題の聞き取りが行われました。今回の確認状況を踏まえながら、今後、新規就農者に対して経営や技術に対するフォローアップ支援を行っていく予定です。



【関係機関との現地確認】

（未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現）

1) 次世代型水田農業推進会議担当者ワーキンググループ全体会を開催

3日に、地域の維持可能な水田営農の実現に向け、関係機関で情報を共有し、地域の課題を検討していくことを目的とした次世代型水田農業推進会議担当者ワーキンググループ全体会を開催しました。

全体会では、再度、地域の課題を把握するための水田営農地図作成の目的について説明し、各地区の活動状況を報告した後、各地区に分かれて、今後の活動について話し合いを行いました。また、振興品目の検討状況等の情報共有も行いました。

次年度も関係機関と連携し、地域の課題解決に向けた活動を行っていきます。

2) 令和6年度 水田ネットワーク交流会を開催

15日に、普及センターにおいて水田営農経営体13法人・戸（参加者数16人）参集し、水田担い手ネットワーク交流会を開催しました。

交流会では、令和6年度に取り組んだ省力化水稻栽培技術及び飼料用米新品種の展示ほの結果について、普及センターから説明しました。

また、意見交換会では、農地の集積・集約について3班にわかれて、話し合いました。交流会では、農地交換の話合いの場が欲しい、農機具を置く倉庫が地域に複数あると人だけの移動だけですむのではないかとといった様々な意見がだされました。

今後もネットワーク活動を継続し、技術の情報共有や課題の意見交換を行い、引き続き共通課題の改善に向けて活動していきます。



【講師と意見交換する出席者達】

3) 西諸県地区普通作物振興技術員会の総会及び検討会の開催

25日に、普及センターにおいて、第3回西諸県地区普通作物振興技術員会の総会を行いました。

今回は前年度実績とともに、直播栽培や苦土の葉面散布等、次年度の取組について協議しました。

品種化予定の「南海189号」の、地域内の取組方針等についても協議し、関係機関と連携を深め、普通作の振興に取り組んでいきます。



【展示ほ等の取組を協議】

4) ミシマサイコの施肥設計検討会を開催

26日に、普及センターにおいて、ミシマサイコの施肥設計検討会を開催しました。ミシマサイコは、2年の栽培期間が必要な作物のため生育後期の肥料切れによる品質低下対策が必要となることがあります。今回は必要な資材の検討、実証展示ほの設定について検討を行いました。

次年度も、本作物の振興に向けた取組みを関係機関と連携して行って参ります。



【施肥設計を協議する関係者】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) 西諸県地域の露地野菜の振興を『語る、考える』意見交換会を開催

11日、普及センターにおいて、西諸県地域の露地野菜の振興に向けた意見交換会を開催しました。西諸県地区の10農業法人と関係機関併せて25名が参集し、露地野菜の振興を目的とした意見交換会を行いました。

今回は、分業化、農地集約、労働力、温暖化等を共通課題として設定し、各課題毎に熱心に協議されました。

令和7年度も引き続き、西諸県地域の露地野菜の振興を目的とした意見交換会を開催します。



【意見を交わす出席者達】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAえびの市いちご団地講習会(第7回)

6日に、JAえびの市本所にて、いちご団地研修生2名を対象とした講習会が開催されました。今回は普及センターの永吉技師から農業経営に関する用語の解説や損益計算書の見方について説明し、最後にエクセルを使った経営シミュレーションを行いました。研修生は目標所得を達成するために必要な収量等をイメージすることができ、経営管理の重要性を理解する良いきっかけになったとのこと。

引き続き関係機関と連携しながら、就農定着に向けた支援を行っていきます。



【受講する研修生】

2) JAこばやしきゅうりほ場巡回

25日に、JAこばやし管内にて、県域JA主催のきゅうりほ場巡回が開催されました。現地2戸を巡回し、実際にきゅうりの生育状況を確認しながらCO2施与方法やかん水管理などについて活発な意見交換が行われました。

今後も引き続き指導員の技術力向上を図り、地域の課題解決に取り組んでいきます。



【ほ場概要の説明を聞く指導員】

3) えびの市いちごモデル農家の支援

7日に、えびの市いちご団地にて、モデル農家の経営検討会を開催し、JA 営農指導員と普及センターが参加しました。毎月1回開催しているこの検討会では、月毎の作業スケジュールや実績、栽培状況の確認を行います。今作の収量は増加傾向にあり、また、新たに設置するハウスの準備も着々と進んでいます。モデル農家からは、作業の進捗管理を見直す良ききっかけになっているとの意見を頂きました。

引き続き、関係機関と連携し若手生産者の支援を行っていきます。



【作業スケジュール等の確認】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) JAこばやしマンゴー部会 市場関係者との園地巡回

5日に、小林市内の部会員ほ場で、市場関係者との園地巡回に参加しました。巡回では、重点市場7社の担当者と見学をし、JA担当者から今年の生育について、「生育が早まった昨年と比べると遅いが、例年並みの生育。しかし、後期の特に7月以降が少ない可能性がある」と説明がありました。市場担当者からは、こまめな情報共有を要望されました。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【生育状況を確認する市場関係者】

2) 小林市果樹農業振興推進対策協議会の総会を支援

14日に、小林市内で総会が開催され、生産者と関係機関合わせて約25名が参加しました。普及センターからは新しい栽培暦や、着色促進剤の試験結果、日焼け対策等の資料を配付しました。会員からは、着色障害や日焼け等の夏場の暑さ対策を求める声が多く聞かれました。今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) ラナンキュラス栽培の支援

随時、西諸県管内のラナンキュラスの切り花生産者9戸、球根生産者1戸のほ場巡回及び支援を行っています。

本格的な出荷が始まっていますが、例年に比べると量が少なく、単価も不安定な状況となっています。栽培面としては、次作の球根作りに移行する時期となってきます。切り花生産者からは、単価安について、根本的な対応の一つとして、植え付け時期について慎重な判断が必要との声が聞かれました。

次作の安定出荷に向けた支援を引き続き行っていきます。



【ラナンキュラスのほ場の様子】

2) JA えびの市管内のキイチゴ「ベビーハンズ」ほ場での植防試験の実施

10日と24日に、JA えびの市管内のキイチゴほ場にて、農薬の散布試験を開始しています。

キイチゴは、3月上旬頃から萌芽が始まり、今後気温の上昇に伴い病気の発生の可能性が高くなってきます。毎年、出荷前の4月以降の病気の発生で秀品率が低下する状況ですので、今回の薬剤の試験により病気の発生を予防できるか農家とともにしっかり調査していきます。



【農家による薬剤の散布】

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1) えびの市集落営農等意見交換会の開催

5日に、えびの市担い手育成総合支援協議会主催で、えびの市の集落営農法人や受託組織、大規模稲作経営体が集まり、意見交換が行われました。

一つは近年の温暖化の影響で等級が上がらない「ヒノヒカリ」と暑さに強い「おてんとそだち」、これから品種化が進められる「南海189号」と令和6年産で特Aを取得した鹿児島産の「あきほなみ」の計4品種の食味比較、もう一つは除草剤による本田雑草の体系処理について、意見交換を行いました。

参加者からは品種の切り替えに関して前向きな意見が出ました。また、会議終了後も残った参加者間で農地や作付けに関して活発な意見交換が行われ、経営体間の接点づくりに寄与できました。



【2班に分かれての意見交換】

2) 西諸地区畑作営農改善推進協議会幹事会を開催

18日に、普及センターにおいて、西諸地区畑作営農改善推進協議会の幹事会を関係機関出席のもと開催しました。会では、令和7年度総会議案(令和6年度事業実績と収支決算並びに令和7年度の事業計画と収支予算等)に関する協議を行いました。なお、総会は令和7年4月の開催を計画しています。



【幹事会で討議する出席者】

3) 西諸県地区営農振興協議会・特用作部会を開催

4日に、普及センター研修室において、茶・かんしょ・薬用作物(ミシマサイコ)に関する特用作物の技術委員会を開催しました。茶の省力、低コスト対策、かんしょの優良種苗体制の構築、ミシマサイコの生産拡大、安定生産に向けた対策について協議され、それぞれの課題の抽出、来年度の取り組みに繋がる検討となりました。

次年度も、特用作物の更なる振興に向けた取組みを関係機関と連携して行って参ります。

4) 西諸県地区果樹技術員会第 8 回定例会

28日に、西諸県地区果樹技術員会を開催しました。会議では、各品目の生育概況報告等を行いました。また、大分県視察で学んだ手法を真似て、土地探し方法の検討をひななGISを用いて実演したり、品目の検討を行いました。承継対策の取りかかりとして、土地探しを重点的に取り組むことを確認しました。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【土地探し方法の検討】

5) ぐれ〜ぶの総会支援

25日に、小林市内で総会が開催され、生産者と関係機関合わせて約普及センターからは新しい栽培暦や、着色促進剤の試験結果、日焼け対策等が発表されました。会員からは、さらなる暑熱対策等の要望がありました。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【要望等を出し合う会員達】

6) 苗鉢物で町を彩る推進会議による生駒高原での活動の支援

6日と19日に、生駒高原にて、苗鉢物の生産者3名で構成される苗鉢物で町を彩る推進会議とともに、生駒高原におけるランンキュラス等の定植を行いました。

小規模ではありますが、ネモフィラとポピーの開花時期の前に少しでも生駒高原で花を愛でてほしいとの思いで定植しています。

今後、どのように開花するか楽しみにしています。是非、お時間がある際に来園してください。



【農家と関係機関でのランンキュラス定植】

7) 西諸県地区花き技術員会第 7 回定例会の開催

28日に、普及センター及び生駒高原にて、令和6年度最後の技術員会を開催し、関係機関10名が参加しました。室内検討では、今年度の活動の共有と来年度の計画の検討などを行い、現地検討では、生駒高原におけるランンキュラス等の実証の状況について視察しました。

来年度については、キク、ランンキュラス、キイチゴを中心に、関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし地区」、JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。